

令和6年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和6年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和6年4月18日(木)

4 調査の内容

(国語、算数) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語、算数とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【小学校 国語・算数 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	4	64.2	66.2	64.4
情報の扱い方に関する事項	1	92.7	87.5	86.9
我が国の言語文化に関する事項	1	84.4	75.3	74.6
話すこと・聞くこと	3	66.1	61.6	59.8
書くこと	2	69.7	69.2	68.4
読むこと	3	72.8	72.0	70.7

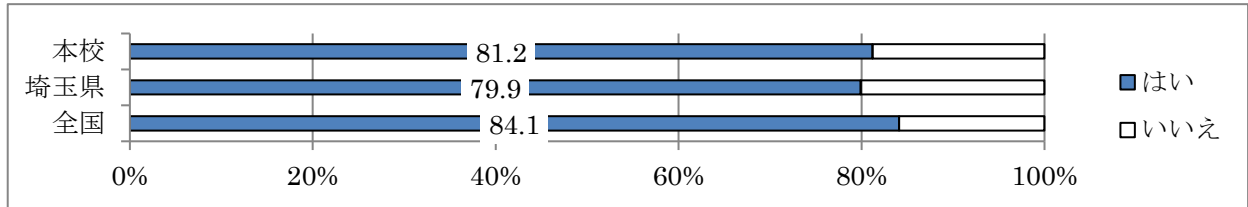
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	65.7	66.2	66.0
図形	4	70.0	67.1	66.3
測定	0			
変化と関係	3	51.4	51.7	51.7
データの活用	4	65.6	62.6	61.8

<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

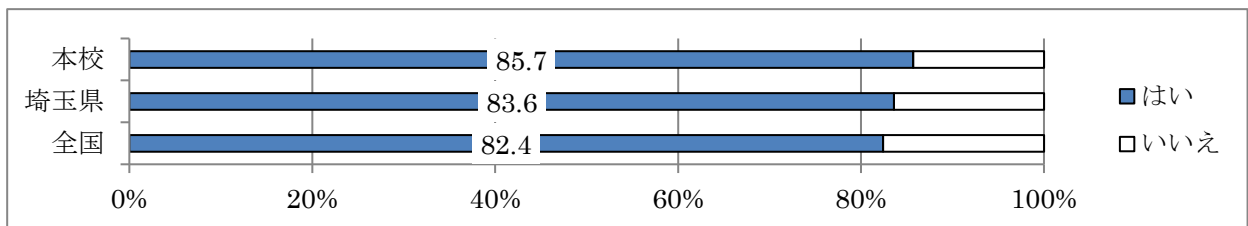
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

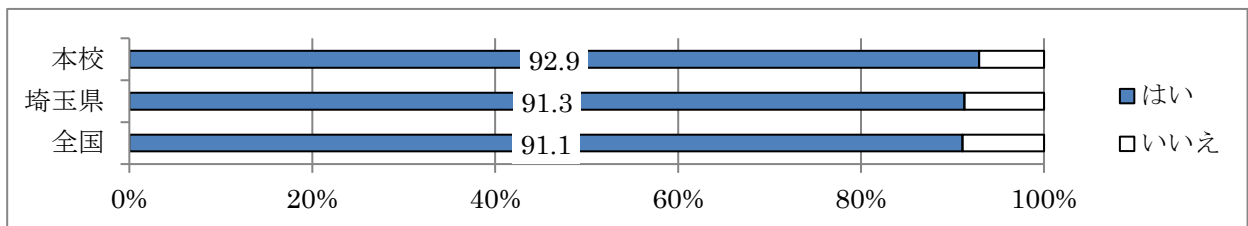
自分には良いところがあると思いますか。



将来の夢や目標を持っていますか。



友達関係に満足していますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

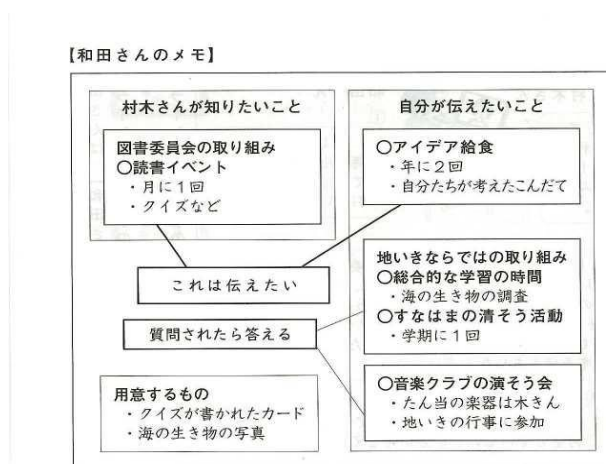
どの領域においても全国の平均正答率を上回りました。特に「我が国の言語文化に関する事項は、9. 8ポイント、「話すこと・聞くこと」は6. 3ポイント高い平均正答率となりました。

【問題】

○正答率の高かった問題

【問題1の一】

和田さんは、【和田さんに届いたメールの内容】を受けて、しょうかいする内容を、次の【和田さんのメモ】のように整理しました。和田さんは、どのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 おたがいの学校の取り組みのよい点を比べて、伝えることを明確にした。
- 2 おたがいの学校の取り組みの問題点を比べて、伝えることを明確にした。
- 3 相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にした。
- 4 自分が知りたいことを取り入れて、優先して聞くことを明確にした。

【正答】

3と解答しているもの

(正答率：全国62. 5% 埼玉県64. 1% **本校75. 2%**)

この設問は、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかを見る設問です。

伝え合うためには、相手を意識しながら活動を行っていく必要があります。なぜそのようなことをするのか、授業では、目的意識をしっかり持たせることで、相手が知りたい情報を取捨選択できる力が備わっていくと考えられます。

【問題】

○正答率の低かった問題

【問題2の三ア】

高山さんは、【高山さんの文章】を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた一部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の一部ア、イを漢字でていねいに書きましょう。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

【正答】

「競技」と解答しているもの

(正答率：全国43.4% 埼玉県46.7% 本校42.2%)

この設問は、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか見る設問です。

漢字学習は、繰り返し取り組むことがより重要とされています。しかし、理解度には差があるため個に応じて学ばせる必要があります。新出漢字を学習するときは、ただ教えるのではなく意味や成り立ちから興味を持たせる工夫もしていきます。

<算 数>

【領域別】

領域別に見ると、B「図形」は、3.7ポイント、D「データの活用」は3.8ポイント高い平均正答率となりました。また、A「数と計算」C「変化と関係」はほぼ正答率が平均値となりました。

【問題】

○正答率の高かった問題

【問題3の(2)】

(2) 図1のような円柱があります。



図1

図1の円柱を、図2のように切り開くと、展開図ができます。



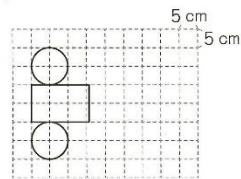
図2

図1の円柱の展開図を、側面の形を長方形にして、工作用紙にかきます。このとき、長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになります。

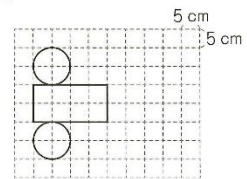
図1の円柱の展開図はどれですか。

下の1から4までの中から、最もふさわしいものを選んで、その番号を書きましょう。

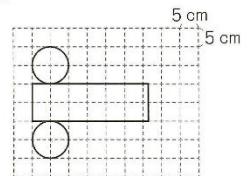
1



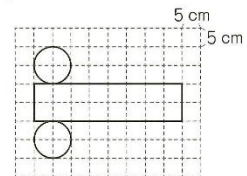
2



3



4



【正答】

3と解答しているもの

(正答率：全国71.3% 埼玉県73.1% 本校81.7%)

この設問は、直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかを見る設問です。

立体模型に触れることや工作用紙などで実際に作成するなどの活動を通して、それぞれの図形の特性を考えていくことで図形学習の素地を身につけさせます。また、今後も具体から抽象へと段階的に理解が進むように授業の展開を工夫していきます。

【問題】

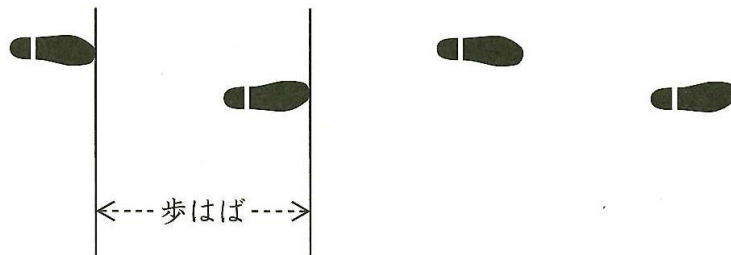
○正答率の低かった問題

【問題4の(1)】

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$ を計算しましょう。

【正答】

900と回答しているもの

(正答率：全国70.1% 埼玉県68.1% 本校61.5%)

この設問は、除数がある場合の除法の計算をすることができるかどうかを見る設問です。算数科は、領域によって得意不得手が出てしまうことがあります。特に「数と計算」の領域は全国、県の平均正答率より低く、課題となっています。今回の設問では、9、90と位取りの誤りによる誤答ではなく、 $54 \div 6$ の計算ができない、無回答での誤答が多いのも特徴となっています。計算は各学年で着実に定着させることが重要になります。今後も授業展開を工夫して計算力を高めていきます。

<質問紙調査から>

【質問例①】	【質問例②】
<p data-bbox="236 241 300 273">質問</p> <p data-bbox="236 282 782 389">総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。</p> <p data-bbox="236 398 354 430">回答結果</p> <p data-bbox="236 439 782 510">「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本校児童の割合</p> <p data-bbox="555 519 737 591" style="text-align: right;">90.2% (全国 81.3%)</p>	<p data-bbox="842 241 906 273">質問</p> <p data-bbox="842 282 1372 353">自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。</p> <p data-bbox="842 398 944 430">回答結果</p> <p data-bbox="842 439 1372 510">「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本校児童の割合</p> <p data-bbox="1161 519 1343 591" style="text-align: right;">67.9% (全国 75.8%)</p>
<p data-bbox="236 604 331 636"><分析></p> <p data-bbox="236 645 782 752">◎本校では総合的な学習の時間の学習計画を課題・情報の収集・整理・分析・まとめを繰り返し取り組ませています。</p> <p data-bbox="236 761 782 869">◎探究的な見方・考え方を働かせて、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく力が育っています。</p>	<p data-bbox="842 604 938 636"><分析></p> <p data-bbox="842 645 1372 752">◆「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、全国と比較して7.9ポイント下回っています。</p> <p data-bbox="842 761 1372 898">◎授業や学校生活の様々な場面の中で、対話する活動を増やすことで、よりよい解決方法を他者と共に協議して深い学びにつながると考えられます。</p>

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和6年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和6年5月15日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
言葉の特徴や使い方	13	66.6	63.1	14	68.2	65.1	15	67.8	62.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	44.0	41.8	3	57.6	53.1	2	63.4	55.3
話すこと・聞くこと・書くこと	9	46.3	45.5	6	60.0	51.6	5	58.0	52.1
読むこと	4	40.6	39.9	8	58.1	48.0	9	52.9	49.4
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
数と計算	13	63.3	65.5	14	50.8	50.9	13	54.7	56.1
図形	6	58.3	56.1	8	68.7	64.0	8	56.3	51.3
4年測定 5,6年変化と関係	6	63.4	63.2	6	55.5	48.6	7	62.3	58.8
データの活用	6	61.4	62.1	4	58.2	48.0	5	27.9	25.8
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑		↑↑↑↑	↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、80.0は80%以上 (％)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○はじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	93.5 88.6	94.2 92.9	94.3 90.8
	② 授業の開始時刻	87.1 89.8	91.5 94.1	93.4 91.7
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	78.5 80.7	82.4 84.7	84.9 77.1
	④ 整理整頓	73.8 75.0	76.8 80.0	76.0 74.3
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	75.9 78.4	77.6 85.9	77.9 67.0
	⑥ 返事	91.6 89.8	91.6 94.1	90.1 84.4
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	83.2 83.0	88.8 91.8	88.2 87.2
	⑧ やさしい言葉づかい	82.7 87.5	86.7 91.8	84.5 82.6
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	80.4 81.8	85.7 91.8	86.2 82.6
	⑩ 話を聞き発表する	77.7 80.7	79.2 72.9	76.0 70.6
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	88.3 92.0	88.5 88.2	86.7 81.7
	⑫ 掃除・美化活動	89.5 93.2	89.6 92.9	87.9 80.7

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆個に応じた指導方法で指導の充実を図ります

- (1) ティーム・ティーチング（二人以上で指導する方法）や少人数指導（1クラスの人数を少なくして指導する方法）を主に算数科の指導において積極的に活用し、きめ細やかな指導をします。
- (2) 算数科では、新しい単元に入る前にプリント等で実態把握を行い、児童の既習事項の理解度を確認してから指導します。
- (3) 全ての子供に、既習事項と関連させた課題解決に向けた自分のなりの考え（見通し）をもたせられるように指導します。
- (4) 授業の終わりに「振り返り」の時間を必ずとり、自分の考えの変容や成長を確認したり、新たな問いや疑問をもったりすることができるようにします。

■学び合いの環境の充実を図り、児童の主体的に学ぶ力の育成を図ります。

- (1) 友達の考え方に触れ、自分の考えと比較したり、新しい考え方に会ったり、個々で調べた意見を統合したりするなど、幅広く児童同士が活動する学び合いの時間を作ります。
- (2) 協働学習の円滑化や情報活用能力の育成等を目指し、ICT機器（タブレット端末）の積極的な活用をします。

授業以外での取組

☆家庭学習の取組を継続して行います（家庭学習プラン）

- (1) 保護者の方々にご協力いただき、年3回児童の家庭学習の機会を作り出し、家庭における学習習慣を身に付けさせます。
- (2) 家庭学習の時間の目安と取り組み方を提示し、宿題＋自主学習に取り組みます。
- (3) 学校と保護者とがサインやコメントで連絡を取り合いながら行う家庭学習（家庭学習キャンペーン）を学期に1回ずつ1週間行う取組を推進します。
(2～6年生…年に3回、1年…2学期より年に2回)
- (4) 家庭向けに家庭学習だよりを発行します。

■ICT機器（タブレット端末）を積極的に活用します

- (1) 職員がICT機器（タブレット端末）を有効活用できるように積極的に学び続けます。
- (2) 児童の操作スキルや情報活用力の向上を図り、授業に生かします。
- (3) 児童が適切にICT機器（タブレット端末）が利活用ができるように、情報モラルの指導をします。

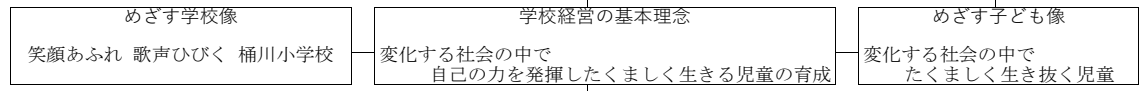
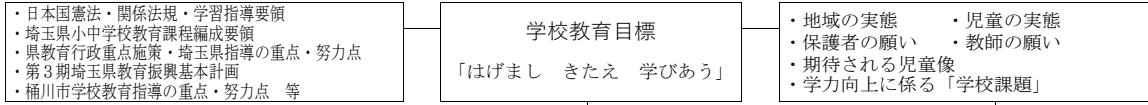
☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン

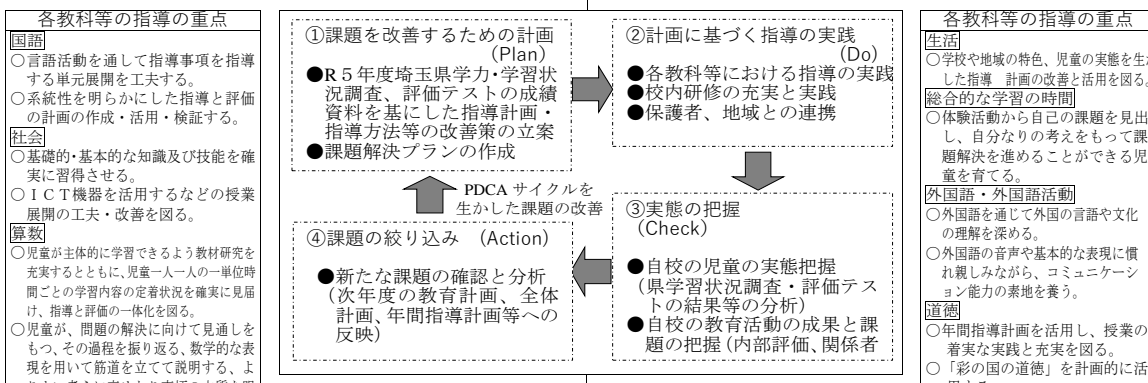
令和6年度 学力向上全体計画

桶川市立桶川小学校



【本校の課題】

- ・「身の回りの整理整頓をする」や「学習のきまりを守る」に課題が見られる。
- ・記述式の問題の正答率が低く、他の問題と比較し無解答率がやや高い傾向が見られる。
- ・自分の意見や考え、解き方等を相手に伝えるように工夫して話したり書き表したりすることが苦手である。
- ・文章の内容から適切に情報を選び抜き、相手に意図が伝わるようまとめ表現することに課題がある。



【改善状況を把握する指標の設定】

- 全国・埼玉県学力学習状況調査
 - ・記述式の問題形式正答率を上げ、無回答率を下げる。
 - ・「身の回りの整理整頓をする」と「学習のきまりを守る」の項目を80%以上にする。
- 埼玉県学力学習状況調査
 - ・国語・算数の学力を伸ばした児童の割合を75%以上にする。

	I	II	III	IV	V	VI
改善の観点	指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	校内研修の計画と実施の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎・基本の確実な定着と活用能力の育成を図る。思考力・判断力・表現力の育成のための言語活動の充実を図る。学習規律を徹底する。	桶川小の実態にあわせ教育課程の編成を行う。	「主体的・対話的な深い学び」を実現するために、新学習指導要領に関する研修を行う。年間指導計画等を計画的に実施する。	児童一人一人が意欲をもって取り組み、一人一人のよさを伸ばすことができるように、指導と評価の一体化を図る。	「算数科」の研究を通して、「自ら課題を見つけ、粘り強く学習に向かう児童の育成」のため、授業力の向上と授業改善を目指す。	家庭地域と連携し、学習規律、生活規律を身に付けさせる。
課題解決のための具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業1時間プラン」の実施 ・教科担任制(高学年)の実施 ・少人数指導の実施(3年より。単元によっては能力別とする。) ・教育指導補助員による個別支援 ・ICTを活用した指導方法の充実 ・タブレット型端末を活用した授業の実践 ・児童の意見集約、共有 ・大型提示モニターを活用した資料提示 ・全国・埼玉県学力・学習状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、各学年間の系統的、発展的指導の工夫 ・単元の配当時間の工夫 ・調べ方やまとめ方、表現の方法など、異なる教科間の連携を図る指導時期の工夫 ・体験的な学習問題解決的な学習の計画的な位置付け ・ICT使用を取り入れた授業計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づいた年間指導計画の作成 ・教材教具の作成と工夫 ・言語活動の充実を図る指導計画の実施 ・情報の選択・活用方法や情報モラルの指導の工夫 ・ICTの効果的な活用方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいの明確化 ・単元末テスト、小テストの研究と実施 ・評価、評定の規程や手立ての工夫 ・児童の自己評価、相互評価を通して、自己評価能力の向上と自分や他者のよさを認め合う風土の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題研究推進委員会を中心としたPDCAサイクルを意識した研修計画の立案 ・学力向上推進委員会を中心とした、学力向上研修の実施。(学力学習状況調査の問題の解き直しと結果の分析を全員で行う。) ・研究組織の創意工夫 ・校内授業研究会の実施 ・市教育委員会との連携 ・市教研との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・「規律」「学力」「体力」に係る家庭での取組の一層の推進「桶川みんなの約束」の徹底 ・「家庭学習プラン」による家庭学習の習慣化と学力の向上 ・家庭学習キャンペーンの実施 ・生活習慣の改善 ・家庭教育の啓発 ・PTA活動の活性化 ・学校応援団の活用 ・HPによるアピール ・幼保中連携の充実
関連する行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・校内研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・教育課程編成委員会 ・運営委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・運営委員会 ・教科等部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・運営委員会 ・学年会 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同訪問での授業公開・授業研究 ・校内授業研究会 ・市教研授業研究会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開・授業公開 ・懇談会・PTA総会 ・個別面談・学校便り ・家庭学習キャンペーン

保護者・地域の皆様へ

日頃から桶川小学校の教育活動にご協力、ご支援いただきありがとうございます。数値は本校の児童の傾向を表したものです。当然、個々のお子さんの結果とは異なる点も見られるはずです。学校では、児童全体の傾向を意識してわかる授業を展開してまいります。また、児童のよさを伸ばし、苦手を克服できるように、そして「できた」、「わかった」の気持ちをもてるように、個人を大切に指導してまいります。

学力向上は学校だけでなく、家庭・地域の連携のもと学んだことを確認したり、生かしたりする場が確保されることで実現します。そのため、学校から発信する各種のお手紙や課題として取り組んだものに目を通していただき、学習内容をお子さんと確認し、支援していただくと助かります。これからも本校の教育活動にご理解いただき、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

☆家庭生活において

① 規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう。

- ・早ね、早起き、朝ごはん
- ・時間の使い方（ゲーム、テレビ、スマホ等）を家庭のルールとして決めてください。（目の健康のためにも）

② 家庭学習に取り組ませてください。下記は、目安の時間です。

1年生…20分	2年生…30分	3年生…40分
4年生…50分	5・6年生…60分	

③ 持ち物の確認・準備をさせてください。（忘れ物をなくすために）

- ・授業で必要なものをしっかり用意することが学習の一步です。忘れ物をなくすために家庭で声かけをよろしくお願いいたします。最終的には、お子さんが一人で準備できることが目標です。